

県外派遣報告書

審判員名	坂本 秀樹	所属	高体連
大会名	第72回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期 間	2018年6月2日(土)、3日(日)		
会 場	栃木県立体育館、いちごアリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容		場 所
6月1日(金)	審判会議		
6月2日(土)	1回戦、2回戦		栃木県立体育館
6月3日(日)	準決勝・決勝		いちごアリーナ
会議 講義 内容			
審判会議に先立ち、渡邊関東ブロック長、大野千葉県専務理事から「今年度から関東ブロック大会は1回戦から、3POでの実施」を決めた目的等を説明いただいた。3POで各県からの審判員が経験を積んでいくことで、関東全体での理解が進むことを希望すること。ただし、「メカニック」に偏重することなく、より良い「判定」をするための「メカニック」であることを忘れないように、とのアドバイスを頂いた。 ●菊地関東副部長より・・・資料「ガイドライン」を基に、「悪い手」「スクリーン」「アンスポーツマンライクファウル」などについて、改めて確認・共有した。 ●大河原氏(指名)より・・・「3POを実施する中で、自身が困っていることは何か?」という事前アンケートを基に、映像を使ったりしながら、より良い考え方、より良い位置取りについてレクチャーを受けた。講義の中では、「いかにホールサイド2を形成するか」「close downの位置取りを上手に活用するべき」「Cの役割が重要であること」「primary area と primary angle について」、総合的な内容としては「primary primary primary」「basic basic basic」であること。県内で講習を受けているものを違う角度の視点・言葉遣い等で再確認を行うことができた。			
実技			
担当試合	期 日	6月2日(土)	男子 女子
	対戦カード	小山南(栃木) VS 市立船橋(千葉)	CC U1 U2
	相手審判	CC 廣瀬 渉 氏(東京) U2 内野 翔太 氏(群馬)	
ミーティング内容		主任 山崎 敬二郎(千葉)	
・判定については、やはり「入り方」が大事で、1Q・最初のファウルを大切にしたい。その観点から言うと、CCが示した基準にU1・U2も乗っていったほうが、分かりやすかったのでは?とのコメントを頂いた。3POでの実施ということからも、重要なのはクルーの年齢や経験のバランスとともに、「判定基準が一定であること」であった。Primaryという言葉も、個人個人が頑張る、踏ん張るということではなく、クルー全体での協力によって成立するということを学んだ。 ・内容的には点差が離れて、メンバーが変わっていくゲームであったが、辛抱強くずっとファウルを吹き続けたということは評価された。 ・リード審判がエリアとしては近いのだが、やはりアングルの問題からトレイル審判やセンター審判が見やすいという事象がいくつかあったので、判定すべき者が判定を下す、当たり前のことを続けましょう、とのこと。			
全体の感想			
まずは3POでの実施によって、経験を積ませてくれる判断をしていただいた関東協会に感謝をいたします。県内の大会でも3POでの実施が多くなってきている昨今、「学べる」「実践できる」機会をいただけたのは、県内への還元を含めて非常に大きな財産となります。また、審判員が多くなることで試合運営等でも大変だったであろう開催県の栃木県の方々にも感謝いたします。 今回の関東大会においては、プレカンファレンスに今まで以上の時間が割かれていたように感じます。「ガイドライン」として周知されているものでも、あえて確認につぐ確認を行っておくこと、プレイヤーやチームの特性、ベンチへの対応、TOとのコミュニケーション、フリースローシューターの確認、チームファウルの個数、個人ファウルの個数等々、当たり前とされるものを、当たり前にやり続けることの重要性を改めて痛感しました。 また、ゲームを観戦していて気がついたことですが、3POの実施により、プレイヤー・ベンチ・TO等のストレスが軽減されているように感じました。それはやはり1人分の審判員の目配りや気遣いによるものと思われます。県内大会等では2POでの実施がまだまだ多い現状ですが、スムーズにゲームが進行されるように気を遣っていきたいと思いました。自分自身が「メカニックの理解」、「判定力の向上」をするとともに、埼玉県内の審判の方々への還元方法も工夫していこうと思います。貴重な時間をありがとうございました。			